

令和 7 年度

公益財団法人いわき市教育文化事業団予算書

(抜粋)

自 令和 7 年 4 月 1 日

至 令和 8 年 3 月 31 日

公益財団法人いわき市教育文化事業団

目 次

	ページ
事業計画書	1
収支予算書	16

事業計画書

令和7年度事業計画

令和7年度は、国際情勢の変化や物価の上昇等により、社会状況が大きく変化することが想定されますが、公益法人としての責任と使命を踏まえ、適切な運営を図りながら市勢の発展に寄与してまいります。

文化財部門は、いわき駅周辺の再開発事業における発掘調査が一段落し、一般国道6号勿来バイパス関連調査と、双葉郡富岡町での確認調査を継続して実施する予定です。さらに、平城跡をはじめとする調査報告書の刊行にも取り組みます。

施設部門は、勿来関文学歴史館と生涯学習プラザの指定管理期間が更新されたことから、引き続き、市内の社会教育施設8館の指定管理者として、事業実績に対する評価・検証を適切に行いながら、適正な運営に努めます。

基本理念

当財団は、埋蔵文化財の調査及び研究を行うとともに、教育水準の向上及び文化の発展に寄与するために、人の営みや地域に根ざした歴史・文化を正しく継承、発信し、新たなまちづくりに活かしていくことを目指します。

今後とも、公益法人としての社会的責任を強く自覚し、行政や地域団体等との「連携・協働」の強化を図りながら、社会ニーズを捉えた事業運営を誠実に実行します。

基本方針

① 「教育・文化の振興とひとづくりへの貢献」

- ・ 職員の専門性と創意工夫を活かし、社会のニーズを的確に捉えた事業を展開することで、学習の機会を提供し、教育文化の振興に寄与します。
- ・ 蓄積してきた地域の歴史等に関する調査研究の成果を還元することで、郷土愛の醸成を図り、ひとづくりや地域づくりに貢献します。

② 「文化財保護の推進」

- ・ 埋蔵文化財の発掘調査を担う団体として、いわき市教育委員会と緊密な連携のもとに調査に邁進し、その成果を最大に引き出します。
- ・ いわき市考古資料館などと連携して、いわき地域の歴史や文化に関する調査研究を深化させ、埋蔵文化財の価値や魅力を市民に発信します。

③ 「愛され、親しまれる施設の確立」

- ・ 各施設が持つ地理的、歴史的、機能的な特色を活かすため、職員の発想と創意工夫を取り入れ、各種団体等との交流、協働を図り、多様化する市民ニーズを捉えた事業を推進し、にぎわいを創出します。
- ・ 社会教育施設間の有機的な連携を図り、当財団の専門性を活かすことで、地域の多彩な歴史、文化的魅力を発信し、生涯学習や社会教育の理念の達成をサポートします。

④ 「時代の変化に対応できる人材の育成」

- ・ 各施設の設置趣旨に沿った事業活動を推進するため、学芸員等の有資格者を適切に配置するとともに、各種研修を充実させることで人材の育成強化を図ります。
- ・ 変動する社会環境のなか、新たなニーズをつかみ、各種事業を展開していくため、職員一人一人がプロフェッショナルとしての自覚を持って行動し、学ぶことができる組織を目指します。

1 文化財部門(公1 埋蔵文化財の発掘調査事業)

本事業は、文化財保護法に基づき埋蔵文化財の発掘調査を行い、出土品の整理等作業及び発掘調査報告書を刊行します。これらの調査・研究成果は、いわき市考古資料館と連携した普及事業に活用します。

事業の実施にあたっては、発掘調査等における安全な作業環境の確保と事故の防止に務めるとともに、事業の円滑な実施に努めます。

また、発掘調査や整理作業等において飛躍的に技術が進歩・普及してきたデジタル技術についても積極的に導入し、作業の迅速化に努めます。

啓蒙普及事業では、いわき市考古資料館と連携した「令和6年度発掘速報展」を担当します。また、出前講座等への職員派遣も積極的に推進します。

(1) 発掘調査事業

いわき市内8件、市外1件、計9件の事業受託を予定しています。委託者は、いわき市やいわき市教育委員会のほか、富岡町教育委員会、国土交通省東北地方整備局磐城国道事務所、東日本旅客鉄道株式会社となります。

ア 試掘・確認調査

開発に伴う事前調査で、埋蔵文化財包蔵地内の個人住宅建築や民間開発・公共事業等を要因として実施します。14件ほどの調査を想定しています。

イ 発掘調査

一般国道6号バイパス関連事業の継続で、令和5年に実施した北作B遺跡の隣接地点が調査対象となります。

市外の調査では、双葉郡富岡町の小浜代遺跡の範囲確認調査を実施します。

ウ 整理等作業

いわき駅北口再開発地区の平城跡、餓鬼堂横穴群及び湯長谷館跡の整理等作業を実施します。

エ 報告書作成・刊行

国史跡指定に向け確認調査を実施してきた梅ノ作瓦窯跡群、市道改良に伴う平城跡と砂畑遺跡の計3冊の調査報告書を刊行する予定です。

(2) 啓蒙普及事業

ア 遺跡報告会・展示解説会

いわき市考古資料館の企画展「令和6年度発掘速報展」において、対象遺跡の遺跡報告会及び展示解説会を担当します。あわせて資料として『いわき発掘ニュース』を作成します。

イ 出前講座

小学校や公民館等からの依頼による出前事業を積極的に実施します。

令和7年度事業一覧

ア 発掘調査（試掘・確認調査含む）

No.	事業名	委託者	遺跡名	事業内容
1	市内遺跡発掘調査 (市内試掘)	いわき市教育委員会 (文化財課)	市内一円	分布調査 試掘・確認調査 整理等作業、 報告書作成作業
2	一般国道6号勿来バイパス関連 事業	磐城国道事務所	北作B遺跡 (勿来町関田北作他)	発掘調査
3	富岡町小浜代遺跡範囲確認調	富岡町教育委員会	小浜代遺跡 (双葉郡富岡町小浜)	発掘調査

イ 整理等作業、報告書作成・刊行作業

No.	事業名	委託者	遺跡名	事業内容
4	梅ノ作瓦窯跡群範囲確認調査	いわき市教育委員会 (文化財課)	梅ノ作瓦窯跡群 (小川町下小川字梅ノ作)	報告書作成・刊行 作業
5	埋蔵文化財発掘出土品等整理事業	いわき市教育委員会 (文化財課)	湯長谷館跡 (常磐下湯長谷町)	整理等作業
6	都市計画道路搔槌小路幕ノ内線 改良工事	いわき市(土木課)	平城跡 (平字柳町)	整理等作業、報告 書作成・刊行作業
7	新屋敷・南作線道路舗装工事	いわき市(土木課)	砂畑遺跡 (平荒田目字砂畑)	整理等作業、報告 書作成・刊行作業
8	県営治山事業餓鬼堂地区	いわき市(林務課)	餓鬼堂横穴群 (平薄磯字北ノ作)	整理等作業
9	いわき駅北口再開発事業	東日本旅客鉄道株式会社	平城跡 (平字白銀町)	整理等作業

※ No.は、次頁「令和7年度事業実施遺跡位置図」に対応している。

令和7年度事業実施遺跡位置図

ア 発掘調査業務

② 北作B遺跡 (勿来町関田)

イ 整理等作業、報告書作成・刊行業務

④ 梅ノ作瓦窯跡群 (小川町下小川字梅ノ作)

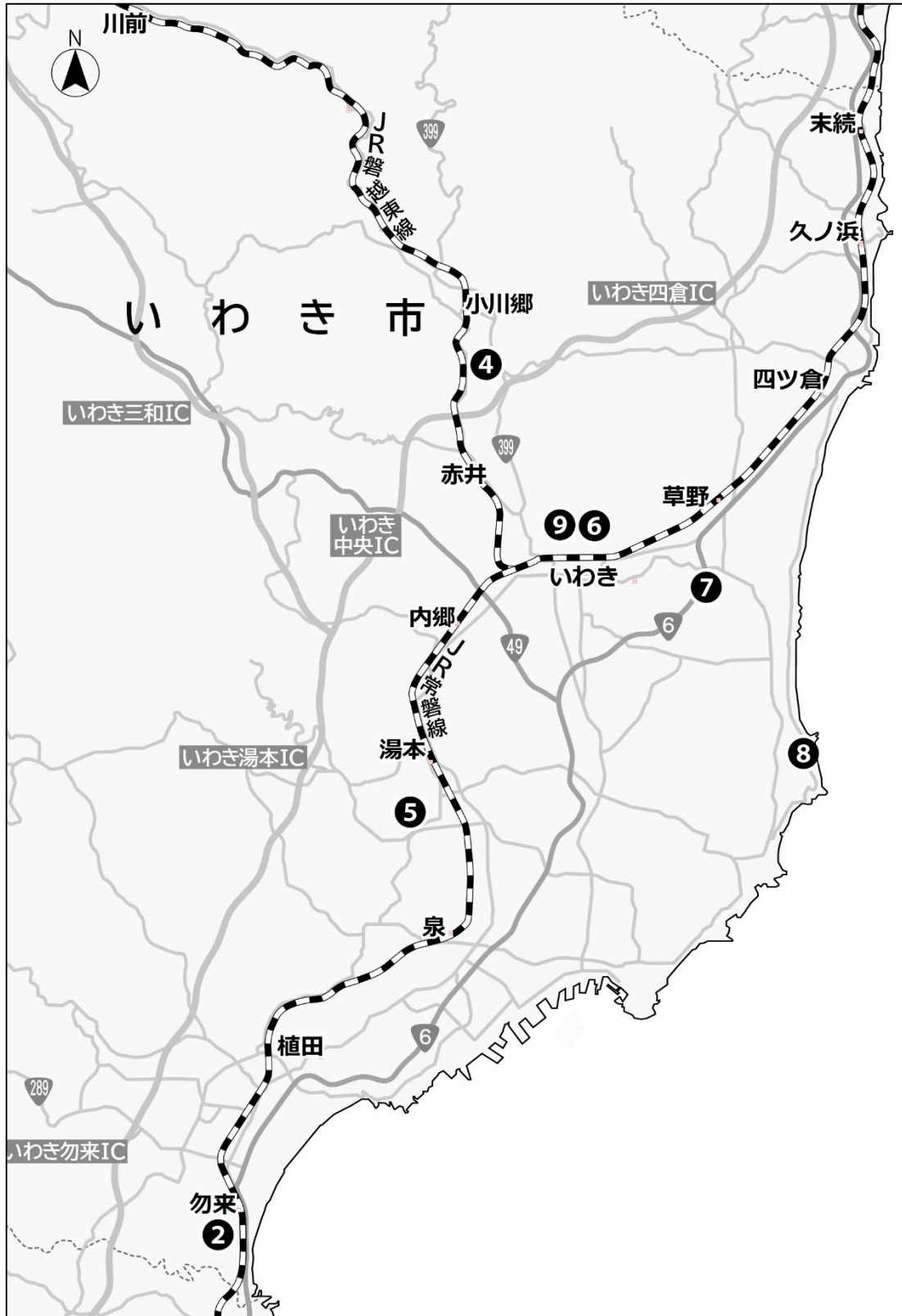
⑤ 湯長谷館跡 (常磐下湯長谷町)

⑥ 平城跡 (平字柳町)

⑦ 砂畑遺跡 (平荒田目)

⑧ 餓鬼堂横穴群 (平薄磯)

⑨ 平城跡 (平字白銀町)



2 施設部門（公2 教育文化施設の管理運営事業）

8施設中2施設は指定管理初年度となります。次期指定管理者応募に向けて、今期の振り返りと評価を的確に行い、新たな事業計画の作成に活かしていきます。

通常業務においては、公共施設の設置意義を考え、施設の目的や機能に基づいた管理運営に努め、利用者への公平かつ平等なサービス提供を図ります。

また、利用者の意見を適宜把握しながら、質の高い事業を展開することで、市民へのサービス向上を図ります。

さらに、利用者の安全確保を最優先に、施設設備の維持管理に当たっては細心の注意を払い、市や県と連携しながら快適で利便性の高い施設環境を維持します。

(1) いわき市立草野心平記念文学館及びいわき市草野心平生家

【いわき市立草野心平記念文学館】

ア 常設展示事業

- (ア) 寄贈資料の整理を進め、草野心平等に関する調査、研究を行います。
- (イ) 草野心平やいわきゆかりの文学者等に関する資料の収集を行います。
- (ウ) 常設展示室では、草野心平の生涯と人間性を物語るエピソードや、作品に見る心平の世界を紹介しており、公式ホームページやSNS、いわきデジタルミュージアムを活用して展示内容を紹介し、広報活動を行います。
- (エ) 展示内容について理解をより深めるための展示図録やパンフレットを販売し、無料の解説シートの配布を引き続き行います。
- (オ) 朝夕の1日2回、展示資料に異常が無いかを職員が点検します。
- (カ) 学校や団体、利用者からの要請により展示内容を解説し、草野心平の生涯や作品についてわかりやすく紹介します。

イ 企画展事業

令和7年度は、令和6年度から引き続き開催する「草野心平の書画展」「吉村昭と磐城平城」「草野心平と川内村」の3企画展を開催します。

- (ア) 「草野心平の書画展」は、令和7年3月からの開催に引き続き、詩人の多彩な創作活動の一端を紹介します。
- (イ) 「吉村昭と磐城平城」は、吉村昭の生涯と代表作品から「歴史小説」の魅力を紹介し、あわせて磐城平城の発掘調査で出土した遺物も紹介します。
- (ウ) 吉村昭記念文学館及びいわき市考古資料館の協力を得て開催する「吉村昭と磐城平城」では、事前に資料調査を実施した上で、同館からの借用資料を決定します。
- (エ) 「吉村昭と磐城平城」で借用する資料は、動産保険に加入後、資料のコンディションチェックを行い、資料の梱包運搬を学芸員が担当します。
- (オ) 「草野心平と川内村」は、天山文庫が設立60年を迎えるのにあわせ、「村は人なり」と評した草野心平と川内村の関係を紹介します。また、パンフレットを作成し、新たな視点から紹介する詩人の側面の記録とします。
- (カ) 企画展ごとに、ポスター、チラシを印刷頒布し、広報に努めます。また、公式ホームページやSNS、全国文学館協議会共同ホームページなどを活用した広報も実施します。
- (キ) 企画展会期中は、朝夕の1日2回、展示資料に異常が無いかを職員が点検します。
- (ク) 企画展ごとに、学芸員が展示資料を解説するギャラリートークを開催します。また、学校や団体、利用者からの要請により、企画展の解説を実施します。

ウ その他事業の実施、提供するサービスの内容

- (ア) スポット展示を4回開催し、それぞれ「猪狩満直」「草野心平 史跡を歩く」「吉野せ

い) 「草野天平」について展示を行います。

(イ) 文学への関心を高めるため、草野心平にゆかりのある方や文学に関する「文芸講演会」を開催します。また、「文学散歩」として企画展に関連する地を巡るほか、「移動水族館」や「ガリ版ワークショップ」などの体験事業を開催します。7、8月の開館時間延長の際には「サマーナイトの催し」として演奏会や朗読会を開催します。

(ウ) 施設の運営記録誌として「年報」を発行します。

(エ) 吉野せい賞協力事業として、表彰式にあわせてスポット展示「吉野せい」を開催します。

【いわき市草野心平生家】

ア 催し物

(ア) 生家に暮らした頃の草野心平と同年代の小川町の児童ヘカエルのタマゴ型ランタンの作製を依頼し、心平作品とふるさとに親しみを持てる展示を開催します。

(イ) 草野心平の作品世界へ関心を深めるため、心平にちなんだカエルのクラフトワークショップを開催します。

(ウ) 草野心平が愛した郷土芸能であるじゃんがら念仏踊りを、心平が暮らした少年時代と同年代の子どもたちが実演し、お盆供養をします。

(エ) その他、没後38回忌「心平忌」や「草野天平の集い」など、生家としてふさわしい事業を開催します。

イ 接遇研修

来場者へ適切で丁寧な対応ができるよう、いわき市草野心平生家ボランティアの会会員を対象とした研修を年1回実施します。

ウ ボランティア総会・役員会等への出席

毎年3月開催のボランティア総会及び月1回開催されるボランティア役員会に職員が出席して連携を密にし、情報交換を図ります。

エ 平消防署小川分遣所と連携し、防災訓練を年1回行います。

(2) いわき市暮らしの伝承郷

ア 常設展示事業

常設展示室内では、実物展示・模型・映像などの展示手法を活用し、いわきの民家・福島県の民家・日本の民家、いわきの年中行事・祭り・伝統芸能、子供たちの暮らしの移り変わり、村境の景観等を紹介しています。展示資料の説明補充や一部展示替え及び追加展示について随時、調査・検討・実施します。ロビー等での資料展示を継続し、季節に因んだ資料や新しく寄贈を受けた資料等を随時展示します。

イ 企画展示事業

地域の暮らしをテーマとした内容を中心に取り上げることで、市民の知的好奇心を満たし、郷土愛を育む機会を提供します。展示内容は、通年で実施している資料の受け入れ、整理事業、さらには民俗の記録調査の成果を市民に還元することを念頭に置いて企画します。

(ア) 第1回企画展「いわきの民話と伝承文学」は、市内各地に語り伝わる民話や伝説を、分布とともに紹介します。

(イ) 第2回企画展「漁業と浜の暮らし」は、いわき七浜を中心に漁業の特徴や歴史を、浜の暮らしとともに紹介します。

ウ 古民家維持管理事業

日常行う雨戸の開け閉めや掃除での古民家の状況把握以外に、定期的な目視による点検を行い、不具合を速やかに発見し、永続的な保存につなげていけるように管理します。また、園内の下草刈り、落葉掃き、古民家での火焚きによる民家の保全、民具の手入れなどは、ボランティアと協働で実施し、古民家を含めた景観の整備を行います。

エ 調査研究事業

市内の祭礼・民俗芸能・年中行事など、民俗の記録・聞き取りや収蔵資料についての調査研究を行います。

オ 講演会等事業

(ア) 身近にある民俗をテーマとした「伝承郷講座」を2回行います。

(イ) 身近にある歴史を読み解くきっかけ作りとなる「古文書講座」を通して3回行います。

(ウ) 学校や公民館等の依頼に応じて出前講座を行います。

カ 資料整理等事業

民具の調査、民具の寄贈受け入れ、寄贈資料の登録及び収蔵、デジタルミュージアムのデータベース更新、収蔵庫の定期的な清掃・管理を行います。

キ その他の事業

(ア) 体験学習事業

伝統的な技能や芸能等を体験・伝承することを念頭に、「けん玉道場」「民話の語り」「藁馬作り」「竹かご作り」「正月飾り作り（玄関用・神棚用）」「布ぞうり作り」「伝承郷寄席」など、市民のニーズに応える体験学習を22回開催します。

(イ) 年中行事事業

一年を通し、いわき地方の伝統的な年中行事を、一部は旧暦に基づいて季節感とともに再現します。また、来園者も参加できる行事も実施し、地域の伝承や風習にふれるとともに季節の節目を体感できる機会とします。

(ウ) ボランティア育成事業

月に1度、ボランティア向けの学習会を開催します。学習会では古民家の内部構造や、昔の生活の様子、古い道具の使い方等を学びます。学習会で学んだ内容を活かし、来園者へのガイドや団体対応を実施します。また、年中行事事業等への参加呼びかけを行い、施設運営の協力を依頼します。

教育委員会が取りまとめを行っている青少年ボランティアにも依頼し、地域ボランティアと青少年との連携を図ります。

(3) いわき市勿来関文学歴史館

ア 常設展示事業

(ア) 常設展示では、歌枕としての勿来関の紹介や、勿来関が詠みこまれた和歌等について展示・紹介します。あわせて、常設展示室の一角を利用し、勿来関や勿来地区に関わる歴史・文学などを紹介するミニ展示を実施します。

(イ) 学校や団体、利用者からの要請により展示内容を解説し、勿来関や和歌、勿来地区の歴史についてわかりやすく紹介します。

イ 企画展示事業

令和7年度は、「磐城平藩と勿来関」「遠野和紙」「なこそその関と文学」の3企画展を開催します。

(ア) 第1回企画展「磐城平藩と勿来関」は、磐城平藩と勿来関の関わりや、磐城平城にまつわる最新の発掘成果等を紹介します。

(イ) 第2回企画展「遠野和紙」は、市指定有形文化財の「上遠野紙製作用具」等で、遠野和紙の歴史や和紙製造の過程を紹介します。

(ウ) 第3回企画展「なこそその関と文学」は、古来より歌枕として名高い「なこそその関」にまつわる文学作品や、ゆかりのある文学者たちについて紹介します。

(エ) 講演会は、企画展毎に展示内容をより深く理解できる題材を選定して開催します。

(オ) ギャラリートークは、学芸員が展示内容について解説します。

ウ 体験学習事業

- (ア) 吹風殿寄席は、いわき市在住の落語家による寄席を開催します。
- (イ) いわきあるき2025は、勿来関にまつわる文学・歴史と勿来の関公園の自然を紹介します。
- (ウ) クラフト教室は、夏休み・冬休みに親子で楽しめる内容を選定して開催します。

エ 調査研究事業

勿来関や勿来地区に関する資料を収集するとともに、収蔵資料の整理を進め、勿来関に関する調査・研究を進めます。

オ その他の事業

- (ア) 自主事業として、オリジナルグッズ・商品委託販売を行います。
- (イ) 要請により、勿来関にまつわる文学・歴史などを解説する出前講座を実施します。
- (ウ) 要請により、資料閲覧・貸出を行います。

カ 吹風殿維持管理業務

隣接する勿来の関公園体験学習施設吹風殿の開錠施錠等業務をあわせて実施します。

(4) いわき市アンモナイトセンター

ア 常設展示事業

- (ア) 常設展示では、約8,900万年前の大型アンモナイト化石密集層を発掘当時の状態で展示します。あわせて、体験発掘露頭から産出した化石についても通路沿いに展示します。
- (イ) 学校等の団体からの要請により展示内容を解説し、化石密集層の地質学意義についてわかりやすく紹介します。

イ 企画展示事業

夏季及び冬季の小・中学校の長期休暇を含む期間に、古生物や地質に焦点を当てた企画展を開催し、古生物学や地質学の魅力を伝えるとともに、子どもから大人まで幅広い層が楽しめる展示を行います。

- (ア) 夏の企画展は、「いわきの中生代～玉山層の時代」をテーマに開催し、近年研究が進められている玉山層の化石を展示・紹介します。
- (イ) 冬の企画展は、「アンモナイトセンター今年の化石」をテーマに開催し、上部白亜系双葉層群足沢層から体験発掘において産出した様々な分類群の化石を展示・紹介します。

ウ 体験学習事業

- (ア) 一般体験発掘は、個人や家族を対象として毎週土・日曜日に実施します。
- (イ) 特別体験発掘は、学校等の団体を対象とし、原則的に一般体験発掘を実施しない開館日に実施します。
- (ウ) 親子自然探訪教室は、祝日を中心に6回実施します。親子を対象とし、古生物学以外にも自然科学分野全般という広範なテーマでの体験学習カリキュラムの提供を通し、理科への興味と知識を育みます。
- (エ) 出前講座では、地質学・古生物学に特化した博物館であるという特色を活かし、要請に応じて学校や各種イベントに出張し、講演やミニ体験発掘などの学習プログラムを提供します。

エ 講演会事業

久之浜中学校を会場として12月に実施します。双葉層群や中生代に関連したテーマで専門の講師を招聘し、常磐地域に関する地球科学的話題（化石を含む）について講演していただくことで、地域の小・中学生に地質学・古生物学を研究する魅力を伝えます。

オ 調査研究事業

双葉層群やそのほかの地層について、大学や他の自然史系博物館・団体と協力し地質学的・古生物学的研究を進めます。

カ 保存事業

- (ア) 体験発掘露頭から産出する化石について、適切に保管するとともに整理を進めます。
- (イ) 市や市民からの資料の照会に対応するとともに、市の許可を得て他機関への貸出に対応し、地質学・古生物学の普及に努めます。

(5) いわき市考古資料館

ア 常設展示事業

- (ア) 常設展示室において、広く市民にいわきの3万年の歴史を紹介します。また、ミニ展示やイベントを開催して、利用者の促進を図ります。
- (イ) 学校団体や希望する来館者には、常設展示の解説を行い、展示理解の向上に努めます。

イ 企画展示事業

本年度は、恒例となった「発掘速報展」、年間テーマに据えた磐城平城を取り上げた「発掘！磐城平城」の企画展を開催します。

- (ア) 第1回企画展「令和6年度 発掘速報展」は、令和6年度に実施した発掘調査や報告書刊行遺跡に関する成果をいち早く紹介します。
- (イ) 第2回企画展「発掘！磐城平城―大館城から磐城平城へ―」は、本丸跡や武家屋敷跡の田町曲輪の調査成果を中心に、新たに発見された岩城氏時代の成果もあわせて、発掘の成果をわかりやすく紹介します。
- (イ) 第3回企画展「発掘！磐城平城―近代磐城平の夜明け―」は、磐城平城が廃城となった後の明治時代の土地利用について、整備されていった市街地の成果を展示していきます。

ウ 講演会事業

- (ア) 企画展の関連事業として、外部講師を招聘した講演会を2回開催します。さらに、「いわきの考古学講座」を、いわき市生涯学習プラザと連携し開催します。
- (イ) 夏休み中には小学生の自由研究に対応した講座を開催します。

エ 体験学習事業

- (ア) 体験学習会は、毎月4回の土、日曜日を中心に、66回実施し、まが玉、土器・土偶・はにわづくりを実施します。また、11月には「考古資料館まつり」として、より多彩な体験内容を提供します。
- (イ) 学校団体等の依頼による体験学習、公民館等への出前講座に対応します。

オ ボランティア養成事業

いわき市内の考古学にちなんだ知識の習得を目指した「考古資料館講座」を実施し、ボランティア養成に努めます。

カ 調査研究事業

これまでに発掘された遺物や遺構などについて、テーマを設けて資料集成をはじめとする調査を実施します。

キ 保存事業

- (ア) 適切な保管ができるよう適宜点検等を行うとともに、資料の整理を進めます。
- (イ) 市や市民からの依頼による資料の問い合わせや貸出に対応するとともに、公開や利用にも対応し、考古学についての知識の普及に努めていきます。

(6) 福島県いわき海浜自然の家

ア 利用者受入

- (ア) 学校教育団体や社会教育団体等の利用者に、恵まれた自然環境の中で行うさまざまな活動とおして、青少年の心身の健全な育成を図るとともに、多様で魅力ある体験活動の場

を提供します。利用者の安全を最優先とし、安全衛生の管理と施設環境づくりを徹底します。

(イ) 海浜自然の家の機能を最大限に発揮していくため、学校教育活動での利用促進を基軸に据えつつ、幅広い利用者区分を念頭に置いた実効ある利用促進対策、閑散期における対策、魅力的なプログラムを提供しながら利用促進に努め、令和7年度の延べ利用者数は、44,000人を目指します。

(ウ) サービス向上のための工夫として、利用者の申込状況に応じ、特に学校教育団体の利用の多い6～10月は、臨時開所日を設け、利用者の利便性の向上に努めます。また、利用者の満足度向上に向け、アンケート調査などの実施により、利用者ニーズの把握に努めます。

イ 主催事業

いわき地方の風土を生かした自然体験活動や教育効果を期待する事業、海浜自然の家の役割や意義の理解を得ながら、地域と連携する事業など7つの目的を柱とした事業を展開します。

(ア) 立地条件を活かした自然に親しむ事業

a 「遊ぼう！初夏の海で」は、親子（家族）を対象とし、初夏の海で磯場に生息する水生生物の観察と釣りをを行います。磯遊びでは、海の生き物に直接手でふれ、その生態等を観察し、釣りでは、様々な魚が釣れる感触を体感し、身近な海の豊かさを実感してもらいます。

b 「里山散歩」は、子どもから大人までを対象として、自然観察ガイド（当所職員）付きの所内の里山ハイキングを実施します。四季をとおして楽しめるいわき特有の気候と地形を活用し、健康増進といわきの山や植物に関する興味関心を深めます。

(イ) 地域の課題に対応した事業

a 震災・防災学習として、「語り部」による講話や震災・復興関連施設の見学をとおして、東日本大震災の教訓を学び、防災や復興に対する意識の向上を促します。

また、ふくしま教育旅行・ホープツーリズムについて、公益財団法人福島県観光物産交流協会や一般社団法人いわき観光まちづくりビューロー等の取り組みと連携します。

b 「冬を楽しもう！」は、温暖ないわき地方の冬や、降雪地帯である会津地方等、多彩な冬の自然体験活動をとおして自然に親しみ、福島の郷土の豊かさや多様性を体感してもらいます。

(ウ) 現代的な課題に対応する事業

a 「親子のつどい」は、親子（家族）を対象に、季節にふさわしいプログラムを実施します。親子での協働作業をとおして子どもと向き合い、成長を感じるとともに、子どもは家族への感謝の気持ちを持つことの大切さを学ぶ機会とします。

b 「未来キッズ生き生き事業」は、福島県教育委員会と連携し、年5回程度実施します。子どもたちに気軽に身体を動かしてもらい、参加者の体力向上や健康増進につなげます。

c 「スポーツフェスティバル」は、子どもから大人まで様々なスポーツを楽しむとともに、子どもには体力向上、大人には健康維持を促進することを目的とし、健康的な生活への意識向上を図ります。また、実施にあたっては、いわき市内外のスポーツ団体との連携を図ります。

d 「わくわく自然体験（心のケア事業）」は、福島県教育委員会と連携し、福島県内の不登校傾向等にある児童生徒を対象に、自然体験活動を通じて交流体験の機会を提供します。

(エ) 指導者の資質を高める事業

a 「学校教育団体指導者事前研修会」は、学校教育団体の指導者を対象とし、研修活動の企画・立案から諸手続きや実技に至るまでの研修を行い、希望するプログラムの実技

や注意点、体験活動の方法、持参物の確認、同時期利用学校間の活動計画の調整など、円滑な活動に資することを目的として年4回開催します。

- b 「活動プログラム研修会」は、社会教育団体の指導者を対象とし、希望するプログラムの実技や注意点、体験活動の方法、持参物の確認等、プログラム活動をより効果的に実施することを目的として開催します。
- c 「ボランティア養成講座」は、海浜自然の家で活動するボランティア希望者に、利用者の体験活動を支援するうえで必要な知識と技能、役割等を学ぶことを目的として、年4回程度開催します。養成講座修了後は、当所の良き理解者として、各種事業等の参加者を直接支援いただくなど、活躍の場を設けます。

(カ) 教育効果を検証する事業

「ふれあいサマーキャンプ」、「ふれあいオータムキャンプ」は、小学生を対象とし、人とふれあう喜びや協調性、社会性を持たせるとともに、自立心を養うことを目的として開催します。サマーキャンプは海浜活動、オータムキャンプは野外活動を中心に実施します。事業終了後に保護者へアンケートを依頼し、キャンプ参加前と参加後の子どもの変化を検証します。

(キ) 地域住民や県民に対して自然の家の役割や意義を紹介する事業

- a 「オープンデー」は、施設を県民に広く開放し、地域の多様な団体等と連携しながら、海浜自然の家の特徴を生かしたプログラムを春・秋2回提供します。あわせて、地域住民や県民に当所の施設としての役割や意義を紹介します。
- b 「クラフトのつどい」は、海浜自然の家の敷地内や活動エリア内で採取できる自然素材を活用しながら、草木染めや木のキーホルダー、紙バンドや葛つるの手かご作り等の創作活動を、専門知識をもつ職員や外部講師が主導して行い、様々なクラフトや当所についての理解を深めるとともに、物を作る楽しさを感じてもらいます。
- c 「森の音楽会」は、海の近く、森に囲まれた豊かな自然環境のなかで、地元演奏家のコンサートをとおして音楽に親しむとともに、当所の役割の一端を理解してもらいます。
- d 「海浜ワークショップ（平日の成人対象ミニ講座）」は、閑散期の平日を利用し、成人を対象として、周辺で採取した自然素材等を活用したクラフト活動等を実施し、海浜自然の家の魅力を発信するとともに、当所の周知を図ります。
- e より多くの県民の施設利用を促進するため、家族を対象として、閑散期の土・日曜日に施設を部分的に開放するミニ開放デー「自然の家であそんじゃお！」を開催します。

(ク) その他設置目的及び基本方針を具現化する事業

a 社会体験研修・インターンシップ

隣の中・高校生や大学生、社会人の研修を受け入れ、海浜自然の家の業務内容や施設の紹介、利用者への支援の仕方や自然の家の役割について学びます。

- b 当財団指定管理施設や公民館等と連携し、当財団職員による地域に根ざした郷土の歴史等の文化的資源に関する各種講座や、海浜自然の家の施設、各種器具を活用した創作活動、ニュースポーツ等の体験活動を実施する「出前講座」「連携事業」を随時行い、利用者から求められる多様なニーズに応えながら、関連施設の事業活性化及び連携強化につなげます。

ウ 施設管理

安全安心な施設・設備の管理運営を図るため、予防保全の視点で適切な維持管理に努めます。

(7) いわき市生涯学習プラザ

ア 生涯学習に関する情報の積極的な収集・提供・発信

年間事業案内のほか、講座・イベント毎の詳細な案内チラシを作成し、毎月「広報いわき」での案内や市内公共施設での配布のほか、ホームページ、Facebook、Instagramなどのメディアで情報提供を行います。

さらに、市民講師、社会教育関係団体の情報データベースである「いわきまなびあいバンク」の情報収集及び維持管理を行います。

イ 生涯学習に関する調査・分析事業

各種講座の受講者アンケート（講座毎）により市民ニーズの調査と分析を行い、次年度以降の事業計画の参考とします。

ウ 生涯学習に関する人材育成事業

いわき市生涯学習支援ボランティアの会の会員増を図るとともに、市民講師や生涯学習に関わる人たちとの親睦と資質向上を兼ねた研修会を開催します。

エ 生涯学習に関する総合的な相談窓口

市民からの団体活動に関する相談については、マッチングするサークル紹介等とおして、より多くの市民が生涯学習に取り組めるよう情報提供を行います。

オ 生涯学習に関する講座、講演会等の開催

(ア) 生涯学習に関する全市的事業

「いわきヒューマンカレッジ（市民大学）」「福島大学連携講座」及び「生涯学習フェスティバル」は、内容の充実を図りながら、いわき市生涯学習支援ボランティアの会と連携し、開催します。

さらに、一般社団法人茶道裏千家淡交会いわき支部との「ふだん着のお茶会」、いわき市華道連合会との「諸流いけばな展」等、各種団体との連携事業を開催します。

(イ) 生涯学習に関する高度で専門的・先進的な事業

市民ニーズが高い「パソコン実用講座」を引き続き開催します。また、「いわき学講座」を当財団及びいわき市考古資料館と連携して開催し、専門的な学習の機会を提供します。

(ウ) 地域的課題に関する事業

「まちづくり講座」や「スマートライフ講座」等を開催し、地域的課題に関する学習の機会を提供します。

(エ) 施設の機能等を活かした事業

プラザに設置されている茶室や陶芸窯・七宝焼き窯等を活かして、「茶道講座」「陶芸講座」「七宝焼き講座」を継続して開催します。また、研修室設置のIT機器を活かして、ITリーダー企画講座（年11回）を開催します。

(オ) 生涯学習に関する交流事業

生涯学習推進計画基本目標2学びの機会の提供である子育て支援のための「親子陶芸講座」「親子ものづくり講座」「親子ふれあい講座」等、親子で参加できる講座の充実を更に図り、開催します。また、子育てボランティアを活用した「プラザおはなし会」（年12回）・「子どもと遊ぼう！」は参加者に好評であり、継続して開催します。

3 管理部門（法人会計）

事務局は、公益法人の使命を達成できる方向性を明確に示しながら、事業推進に向けた企画調整や組織運営を進めます。

公益法人としての役割を果たしていくため、理事会・評議員会を適時・適切に開催・運営するとともに、実務的な諸課題に対応していくための施設長会議・事務担当者会議等の諸会議の運営を行います。

また、組織を支える人材の確保・育成を推進するため、健康管理をはじめとした福利厚生の実施を図るとともに、効果的・実践的な研修を実施します。また、コンプライアンス意識を組織内に浸透させ、適正な人事配置や労務の管理、予算の執行管理などを行い、円滑な組織経営を支えます。

さらに、施設・設備の経年劣化や甚大化する自然災害を見据え、来館者及び職員の安心・安全と収蔵資料等の維持・保全を図るため、いわき市並びに福島県の所管課との連携を強化します。

【事業計画】

(1) 円滑な組織運営

- ア 理事会・評議員会の開催・運営
- イ 施設長会議、事務担当者会議等の諸会議の開催
- ウ 法令等の改正に合わせた諸規則等の整備
- エ 計画的な予算編成・執行管理による最適な施設管理
- オ 収支相償の原則を遵守
- カ 適正な資産運用

(2) 適切な労務管理と福利厚生

- ア 職員の採用、異動等の人事
- イ 就業規則等諸規則の整備及び適切な運用
- ウ 職場巡視等による安全・衛生管理や定期健康診断による健康管理の実施

(3) 効果的な人材育成

- ア 効果的・実践的な研修の実施
 - (ア) ふくしま自治研修センターへの派遣
 - (イ) 専門研修の推進
 - (ウ) 自主研修制度の推進
- イ 「研究紀要」の刊行

(4) 戦略的な企画調整

- ア 各施設間の共通認識の形成
- イ 各施設間の連携創出
- ウ 啓発事業
 - (ア) 職員の専門性を活かした出前講座の推進
 - (イ) 各施設の事業計画やイベント情報の連携

4 職員に関する事項

(令和7年1月31日現在)

(1) 事務局

括弧内数字：兼務職員数 単位：名

区 分	事務局長 同相当職	次 長 同相当職	係 長 同相当職	主任職	係 員	嘱託職員	補助職員	計
事務局	1	1	—	—	—	—	—	2
企画管理係	—	1	2	—	—	—	1	4
調査係	—	—	3	2	1	4	12	22
計	1	2	5	2	1	4	13	28

(2) 施 設

区 分	館 長 所 長	次 長 同相当職	係 長 同相当職	主任職	係 員	嘱託職員	補助職員	計
文学館	1	1	1	2	—	—	4	9
伝承郷	1	—	1	1	1	—	4	8
勿来関 文学歴史館	1	—	—	1	—	1	2	5
アンモナイト センター	1	—	—	1	—	1	3	6
考古資料館	(1)	—	(4)	(2)	(1)	—	3	3 (8)
いわき海浜 自然の家	1	1	3	2	—	4	7	18
生涯学習 プラザ	1	1	2	1	—	—	5	10
計	6 (1)	3	7 (4)	8 (2)	1 (1)	6	28	59 (8)

合 計	7 (1)	5	12 (4)	10 (2)	2 (1)	10	41	87 (8)
-----	----------	---	-----------	-----------	----------	----	----	-----------

収 支 予 算 書

収 支 予 算 書

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

(単位千円)

科 目	当年度	前年度	増減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益 (A)	13	1	12	
基本財産受取利息	13	1	12	
事業収益 (B)	653,994	780,856	△126,862	
文化財調査受託料	137,155	276,444	△139,289	事業受託9件
施設指定管理料	502,737	493,033	9,704	施設8件
いわき市立草野心平記念文学館	77,170	76,858	312	
いわき市草野心平生家	3,259	3,259	0	
いわき市暮らしの伝承郷	53,761	53,761	0	
いわき市勿来関文学歴史館	41,137	39,048	2,089	
いわき市アンモナイトセンター	30,209	29,975	234	
いわき市考古資料館	22,162	22,026	136	
福島県いわき海浜自然の家	171,722	167,132	4,590	
いわき市生涯学習プラザ	103,317	100,974	2,343	
施設事業受託料	10,481	8,858	1,623	事業受託6件
吹風殿開閉業務	387	364	23	勿来関文学歴史館
勿文歴収集資料調査検証業務	476	0	476	〃
未来キッズ生き生き事業	3,591	3,650	△59	いわき海浜自然の家
心のケアが必要な子ども対象事業	825	500	325	〃
いわきヒューマンカレッジ	3,894	3,894	0	生涯学習プラザ
プラザ来館者利用駐車場調査業務	1,308	0	1,308	〃
文学館収集資料整理・分類業務	0	312	△312	草野心平記念文学館
考古資料館収集資料調査検証業務	0	138	△138	考古資料館
施設利用料	3,600	2,500	1,100	いわき海浜自然の家
出版物頒布料	21	21	0	
雑収益 (C)	4,047	3,570	477	
受取利息	149	87	62	
雑収益	3,898	3,483	415	
経常収益計 (D)	658,054	784,427	△126,373	(A～C)
(2) 経常費用				
事業費 (E)	633,892	760,865	△126,973	
給料手当	115,531	119,196	△3,665	
賞与引当金繰入額	13,808	12,429	1,379	
賃金	182,431	190,747	△8,316	
共済費	58,281	58,958	△677	
報償費	5,265	5,369	△104	
旅費	3,247	3,703	△456	
消耗品費	13,914	13,391	523	
被服費	601	615	△14	

科 目	当年度	前年度	増減	備 考
燃料費	9,021	8,495	526	
食糧費	517	541	△24	
印刷製本費	14,689	17,591	△2,902	
光熱水費	39,644	40,712	△1,068	
修繕費	4,130	4,761	△631	
通信運搬費	5,532	5,271	261	
広告料	357	369	△12	
手数料	1,442	1,319	123	
保険料	1,498	1,348	150	
委託料	90,479	177,943	△87,464	
使用料及び賃借料	26,992	45,049	△18,057	
工事請負費	2,145	2,871	△726	
原材料費	171	193	△22	
負担金	398	350	48	
公租公課	30,828	37,626	△6,798	
消耗什器備品費	0	0	0	
減価償却費	10,905	11,749	△844	
支払利息	2,066	269	1,797	
管理費	50,924	48,819	2,105	
報酬	399	399	0	
給料手当	21,780	20,341	1,439	
賞与引当金繰入額	2,311	2,064	247	
賃金	4,880	4,723	157	
共済費	6,182	5,748	434	
報償費	212	260	△48	
旅費	724	600	124	
交際費	80	80	0	
消耗品費	474	792	△318	
被服費	30	30	0	
燃料費	72	72	0	
食糧費	54	64	△10	
印刷製本費	3,942	3,402	540	
光熱水費	200	200	0	
修繕費	100	100	0	
通信運搬費	375	361	14	
広告料	50	50	0	
手数料	467	467	0	
保険料	172	198	△26	
委託料	2,353	2,663	△310	
使用料及び賃借料	1,136	1,309	△173	
負担金	1,044	1,083	△39	
補償費	38	38	0	

科 目	当年度	前年度	増減	備 考
公租公課	3,599	3,375	224	
消耗什器備品費	250	400	△150	
減価償却費	0	0	0	
経常費用計 (G)	684,816	809,684	△124,868	(E+F)
当期経常増減額 (H)	△26,762	△25,257	△1,505	(D-G)
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益	0	0	0	
経常外収益計 (I)	0	0	0	
(2) 経常外費用	0	0	0	
経常外費用計 (J)	0	0	0	
当期経常外増減額 (K)	0	0	0	(I-J)
当期一般正味財産増減額 (L)	△26,762	△25,257	△1,505	(H+K)
一般正味財産期首残高 (M)	175,417	200,674	△25,257	
一般正味財産期末残高 (N)	148,655	175,417	△26,762	(L+M)
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額 (O)	0	0	0	
指定正味財産期首残高 (P)	10,000	10,000	0	
指定正味財産期末残高 (Q)	10,000	10,000	0	(O+P)
III 正味財産期末残高	158,655	185,417	△26,762	(N+Q)

資金調達及び設備投資の見込について

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

1 資金調達の見込について

借入の予定		<input type="checkbox"/>	あり	<input checked="" type="checkbox"/>	なし
事業番号	借入先	金額		用途	

2 設備投資の見込について

設備投資の予定		<input type="checkbox"/>	あり	<input checked="" type="checkbox"/>	なし
事業番号	設備投資の内容	支出又は収入の 予定額		資金調達方法 又は取得資金の用途	